

JSAFLレディース委員会 第5回情報交換会報告書

日 時 2023年2月5日(日)14:00～

会 場 葉山会場・オンライン

内 容 ① レディース委員会活動紹介
② 齋藤愛子さん講演
③ 参加者同士の情報交換会



参加者

	葉山	zoom	合計
男性	2	7	9
女性	23	23	46
合計	25	30	55

所属	人数
県連	8
学連(OG含む)	8
ウィンドサーフィン	4
ヨットクラブ	4
各艇種	7
保護者	1
ボランティア	1
所属なし	8
レディース委員会	14
合計	55

県連・学連(OG含む)・ウィンド・ヨットクラブ等
保護者・ボランティアの方まで幅広い参加者

約8割が女性/男性約2割

SDGsにも取り組みマイボトル持参を呼びかけ



アンケート結果

レディース委員会の活動について

小さな声 女性の声を反映
女性のレース参加・運営手伝い可能
悩みなどを共有できる場 発信 アピール
気軽に聞ける、話せる、繋がる、戻れる
女性の社会進出

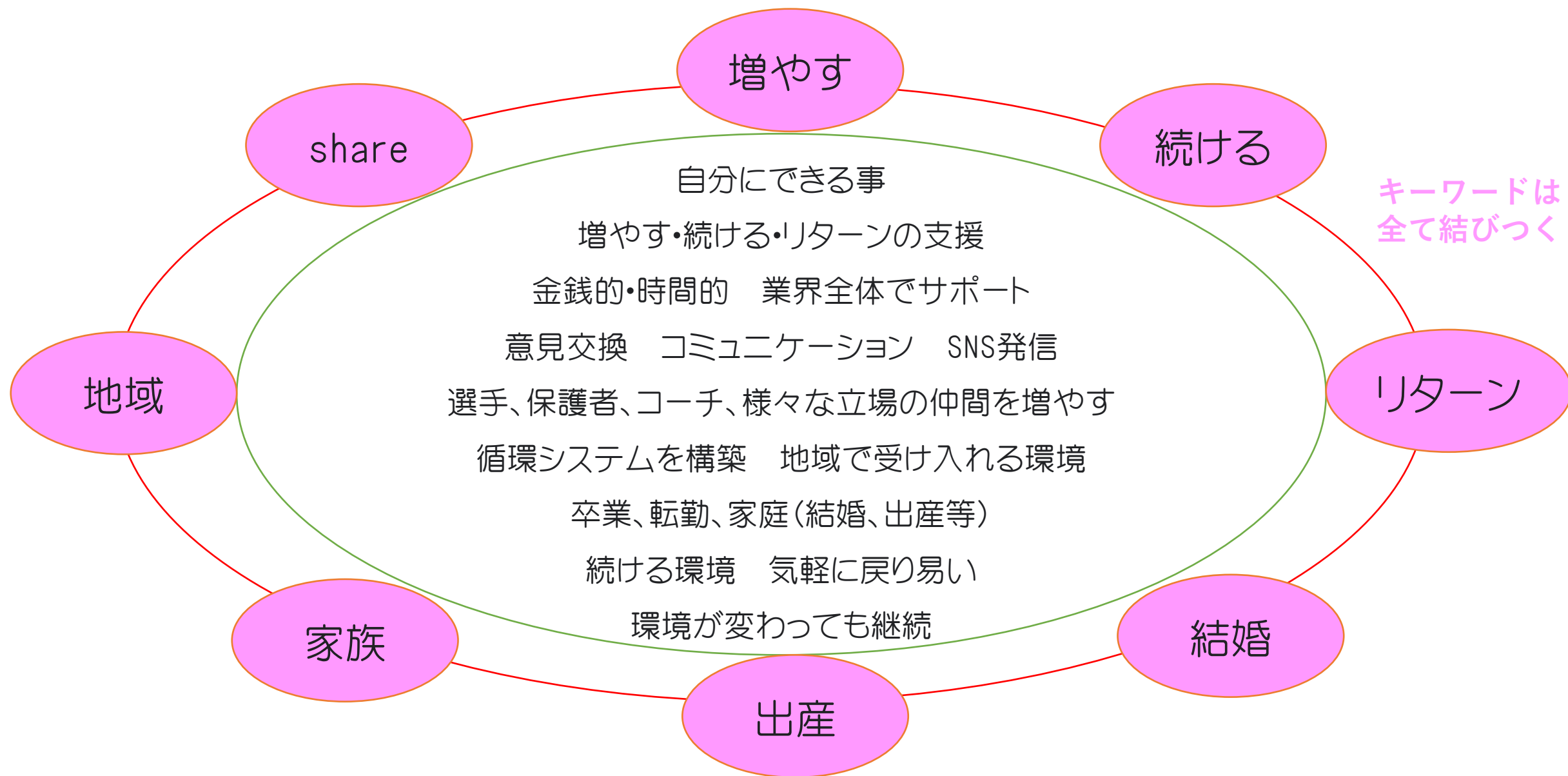
齋藤愛子さんの講演について

女性セーラーの開拓者
選手とサポート側の両方の経験
誰と出逢ったかが大切 未来へのメッセージ
人脈を大切に、未来を見るから進歩する
いつまでもあると思うな過去の栄光
今後のひとつの指針

グループセッションに参加して 横のつながり

女性特有の体の悩みや不安
ジュニアの親の意見 女性コーチ
女性同士で共感できアドバイスができる場
仕事と運営 働き方 コミュニケーション
地域、年齢、種別 繋がり続ける
一度離れても気軽に戻って来れる
環境整備

- ・愛子さんからキーワードをもらって思うこと



・今後レディース委員会に期待すること

- 年に一度のレディースデイ
- 地方とのコミュニケーション、それぞれの地域活動に発展する取組
- 女性セイラーのお悩み相談BOX、気軽に相談できるような仕組み
- SNS発信 ———— Instagram
- 話す・聞く、全国の関係者と地方の状況や実体アップ、情報の共有化
- 取組の継続、セーリングが楽しいことの情報共有 ———— ハンザ試乗会
- セーリング人口の維持・増加に向けた取り組み ———— チャイルドルーム
- 女性レースの支援 ———— 女性レース支援
- 意見交換会の継続的な開催 ———— 情報交換会
- 女性のパワフルさ華やかさでセーリングをアピールし仲間を増やし続ける活動

ステアリング・
ザ・コース

ネットワーク構築
マッチングシステム構築

第5回 レディース委員会情報交換会報告書

目的 <普及><女性支援><社会貢献>

JSAFの掲げる Our Vision2030 セーリングをもっと楽しくの Our Challenge(2)Open Community 関わり続けるに基づいた、継続支援活動の一環として、様々な年代、立場の方々と、現状の課題について情報共有をし、今後の支援方法などを探る

開催方法

葉山港会議室とオンラインでのハイブリット開催。レディース委員会活動紹介、齋藤愛子氏講演、ディスカッション
三部構成

参加者

所属	人数
県連	8
学連(OG含む)	8
ウィンドサーフィン	4
ヨットクラブ	4
各艇種	7
保護者	1
ボランティア	1
所属なし	8
レディース委員会	14
	55

今回 SNS を利用して募集したこともあり、学連 OB や現役学生にも参加いただけた。江の島でセーリングを応援し続けてくださっているボランティアの方やジュニアの保護者といった方ともつながることができた。

成果 <女性支援><社会貢献>

- ・さまざまな方から生の声を聞くことができ、今後の支援活動のヒントとなった。（詳細別紙）
- ・情報交換会は、マイボトルを持参していただき、SDG s の意識づけを図った。SNS 発信により PR となった。
- ・翌週行われた順天堂大学女性スポーツ研究所のセミナーにおいて発表、他競技からも関心興味を持ってもらった。

今後への展開 <女性支援><普及>

- ・ステージが変わっても、セーリングを続けていける環境の整備。関係委員会と連携して何かできないか。
- ・情報交換の継続。
- ・課題解決。レースの共催検討をする。また、海外遠征時の不安解消など上がった声を関係部署に連絡する

JSAF レディース委員会主催第5回情報交換会報告書

日 時：2023年2月5日（日）14:00～

参加者：葉山会場 25 名(男性 2 名含)、オンライン 30 名(男性 7 名含)

内 容：① レディース委員会活動紹介

② 齋藤愛子さん講演

③ 参加者同士の情報交換会

感想



1. レディース委員会活動紹介について

- 小さな声を拾う取り組みに共感する
- とても活発に行動していて女性の声を反映してくださる努力をされていて頼もしい
- 現在、女性の社会進出が進められている中で先進的な委員会だと感じた
- 大会等で保育預かりのサポートはお子さんを預けてレース参加・運営手伝いが可能になる取り組みなので継続希望
- 女性が少なく、悩みなどを共有できる場を作っていただけることが有難い
- 次世代がより活動しやすくなるように、気軽に聞ける、話せる、繋がる、戻れるそういう環境は今後必要である
- 意思疎通が深まり、自分たち自身が何をやっていけばよいのかが明確になり、的確にそれを発信できるようになってきた
- フェイブック等で活動を紹介するなどしてアピールしたらいいと思う

2. 齋藤愛子さんの講演について

- 何をしたかではなく、誰と出逢ったかが大切という言葉が響きました。
- 今まで知らなかった愛子さんのこれまでの話が聞けて良かったです。
- 愛ある未来へのメッセージでよかったです。過去から未来へのつながり、これからに対する捉え方がわかりました。
- 選手とサポート側の両方の経験が豊富にある方のお話はとても興味深く、また、今後の活動についても参考になるキッカケも頂けてとても良かったです。
- 愛子さんの声を聴いた瞬間、高校時代の合宿中に声をかけて頂いた事を思い出し、気が引き締まった。解らなかったことを知り、とても良い機会になりました、私自身の今後のひとつの指針にもなり、ありがたい講演でした。
- 「人脈を大切に、未来を見るから進歩する」というメッセージがとても響きました。
- 愛子さんの活動の履歴を知るとともに、セーリングに捧げる情熱に頭が下がる思いです。特に、女性セーラーの開拓者としての発言には重みがあります。
- 「いつまでもあると思うな過去の栄光」は会社で働くうえでも通ずることで、共感できました。愛子さんは国内外で活躍され、いつもパワフルで行動力があり選手のころからもアドバイスをいただいたり、久しぶりにお会いした際も声をかけていただけ、嬉しく、元気をいただいています。

3. グループセッションに参加してみて感じたこと

- 今回で横のつながりが出来た。
- 女性特有の体の悩みや不安、進学、就職に関する事も話題になりました。
- 「未成年の娘を初の海外遠征に出すことになり、コーチ陣が男性だけだったのが不安だった、女性コーチも付けるとかもっと配慮できないか」という話ができました。
- 東京 2020 オリンピックのボランティアの方の江の島でのおもてなしや、セーリングに対する熱い想いを聞いた。仕事と運営の両立が難しい。レースと仕事、働き方を変える必要がある。競技に取り組む事は人材育成になるということをアピール。
- 個人単位のコミュニケーションが取れるので楽しい時間共有となりました。
- 地域、年齢、種別の初対面の方と会話が出来て楽しかったです。
- 他のセーリングのクラスに興味を持つことができた。世代によって、それぞれの課題があり、女性同士で共感できる場やアドバイスができる場として、役立ったと思う。グループセッションをして「なるほど!」と思う意見も出て、ためになった。
- それぞれの地元で地道な努力をされているのには頭が下がる思いです
- せっかくの機会をいただいたので、ジュニアの親の意見も取り上げていただき、ありがとうございました
- 女性の引率者がいなくて不安があった。これから成長するにあたり女性の体の変化も心配と言った話が聞けました。このような意見を共有することで改善に繋がる。今の現役選手が卒業後にも継続し、繋がり続けたり、一度離れても気軽に戻って来れる、戻り易い環境であるためにも、そして将来後輩のためにもと思える環境整備は継続し取り組み続けたいといけないと思いました。

4. 斎藤愛子さんから増やす、続ける、リターン、結婚、出産、家族、地域、shareのキーワードをもらって思うこと

- 自分に当てはめて考えやすかった。自分にできる事からはじめたい。
- 私が思うのは環境が1番大きな問題。女性は特に選手を続けたければ、結婚も出産もできない。金銭的な部分や時間的に大変。道具が高額で、気軽に手軽にできるスポーツではないので、もっと業界全体でサポートしていけたら良い。
- 支える環境があれば女性がずっとヨットを続ける後押しになる、人同士のコミュニケーションが大事だろうと思いました。
- 循環システムを構築すること。例えば ジュニアがジュニアクラブからヨットクラブとなり親世代も楽しめる艇種があったら ジュニア→学生→選手生活 or ヨットクラブ で自分もセーリングを楽しみつつ、コーチをしたり、親子で楽しんだり。また学校の部活地域移行で地元中学の子どもを受け入れたりできたら面白いのではないかな。
- 先ずは委員会として、増やす、続ける、リターンの支援や活動を活発にしていくことはできるのではないかと感じました。人の意識や社会の風潮などを変容させていく必要もあり、車の両輪のように進められればよいと思う。
- 子供を産んで育てると言う期間のサポートは必須で、この先、強い選手を輩出する為にはこのサポートを充実させて取り組む必要があると感じました。

- まず、私の置かれている立場をもっと理解した上で、SNS 発信を通じた周知や、御家族でセーリングに関わっている方(子供さん)へのサポートなどがしたいなと感じた
- 人数が集まらなると乗れない艇種がある。セーリングや育児に理解してくれるといい。卒業後のセーリングの悩み、続けたいけどどうするのがいいのか。
- 気持ちがあっても環境が無ければ続けることも始める事もできません。何十年経ってもまだまだ手軽に出来るスポーツではないかなと感じます。
- 地域で受け入れられる組織（大げさなものでなく同好会みたいなセーリング以外のお話も気軽にできお喋りする）を立ちあげられるのもどうですか？
- やはりセーリング仲間を増やすことが、一番の課題だと思います。地道な取組の継続と思います。
- 続けるのが1番難しい事で 特に女性は結婚、出産がターニングポイントかなと思います
- 年齢、種目に関わらず、選手、保護者、コーチといった様々な立場の方が仲間を増やすことに関わり続けたいや、卒業、転勤、家庭（結婚、出産等）環境が変わっても継続や一度離れても気軽に戻り易いことが、海、セーリングでは当たり前という理想に向け皆さんと引き続き意見交換し活動し続けていくことが重要だと思いました。

5. 今後レディース委員会に期待すること

- 年に一度のレディースデイを制定して欲しい
- 地方の仲間とのコミュニケーションをたくさん取り、それぞれの地域活動に発展していくような運営を希望
- 女性を取り巻く課題解決の向けての活動。楽しくセーリングを続けていくために、女性セイラーのお悩み相談BOXなどを設け、女性のなかなか相談しづらいことを☎でタイムリーに気軽に相談できるような仕組み。委員会メンバーが活動しやすい環境改善。
- SNSを使ってどんどん発信してほしいと思います。
- やはり対面で話す・聞くが重要で、全国の関係者が一同に集まり会議が開催可能。HPを立ちあげ地方の状況や実体を多くアップしてもらい全員で情報の共有化するのはどうか
- 現在の取組の継続、セーリングが楽しいことの情報共有し、セーリング人口の維持・増加に向けた取り組み
- 女性レースの支援をレディース委員会にしてほしい
- 意見交換会の継続的な開催を望みます(zoom 参加含め)
- このような情報交換会は継続いただきたい、女性のパワフルさや華やかさでセーリングをアピールし仲間を増やし続ける活動を引き続きお願いします。